

令和2年度茅ヶ崎市まちぢから協議会連絡会12月定例会議事録

- 1 日 時 令和2年12月9日(水)午後1時30分～午後3時10分
- 2 場 所 市役所本庁舎4階 会議室1
- 3 出席者 後藤会長、細田副会長、林副会長、矢野会計、三觜監事、前田監事
河内昇、城田禎行、倉金榮、篠原徳守、真野宗直、林申次、高山和茂
森谷義明、尾坂清、小林守、滝本誠、新倉昭人、雫石剛、末松一豊
青木三郎、日向清志、仲村眞、長嶋憲治、永澤鐵男の各委員
欠席 弓達委員
都市政策課長(深瀬課長外)、秘書広報課(寺島課長外)
市民自治推進課(三浦課長、木村課長補佐、伊藤課長補佐、窪田副主査)
事務局(山田、山際)

4 会議の経過

会議開始前に表彰状の伝達を行った。次のとおり。

防犯功労者 小出地区まちぢから協議会 矢野福德会長

防犯功労団体 松浪地区まちぢから協議会

防犯特別功労賞 後藤会長

共同募金事業 海岸地区まちぢから協議会 林正明会長

共同募金ボランティア活動 茅ヶ崎地区まちぢから協議会 河内会長

(1) 開 会 細田副会長

(2) あいさつ 後藤会長

(3) 議 題

① 会報誌「まちぢから」第5号の発行について(報告)

資料に基づき事務局より説明した。

② 委員研修会について(報告)

資料に基づき市民自治推進課長及び事務局より説明した。

③ 令和3年新年賀詞交歓会について

資料に基づき事務局より説明した。

④ 木下大サーカス横浜公演の招待券の配布について

資料に基づき事務局より説明した。

⑤ その他

ア 情報交換について

(ア) 市内の犯罪発生状況について

資料に基づき警察協議会委員の細田副会長より説明があった。

幸い振り込み詐欺の状況は、鶴嶺東地区に1件だけでした。トータル31件、前年に比べると少し増加です。あとこの中で、一番目立ってるのは自転車の盗難です。先月11月だけで20件発生しています。駅に近い茅ヶ崎地区が中心で増えてます。全体としては、累計の件数もトータル432件であと1カ月でこれがどれくらい抑えられるかだと思います。それから下段の方をご覧いただきたいと思います。下段

の中で茅ヶ崎市と寒川町があります。茅ヶ崎市の発生件数が4件プラスの46件になっている。この大きな原因は高齢者、二輪車共に件数は減ってるんですけども、一番右端の自転車これが22件でこれが9件増えてるんですね。自転車に乗る人が増えてきていると警察も言ってるんですが、充分ご注意いただければと思います。茅ヶ崎市としては令和元年に比べれば令和2年の月でトータルでいきますと全部マイナスなんですけど、県の方の比率ですね、発生比率でいくと二輪車が下がってるだけで、前月と同じように県よりは高いです。裏面をの方も、見ておいていただきたい。地域別の11月現在の数値です。以上です。

(会長) 振り込み詐欺も昨年がいきなり下がったこともありまして、トータルで4件ぐらい増えているんですが、浜須賀と湘南は11月まで振り込み詐欺がゼロですので、あと一か月頑張れば達成できますので、頑張りましょう。

(イ) 席上配布

茅ヶ崎サポセンニュースレター、公民協働のまちづくり、まつなみだより、松浪コミセンだより、湘南地区洪水にそなえて(2種)、小出七福神めぐり

(松浪地区) 今回まつなみだより4月に1回だけで、その時はなにも行事がなく役員名簿くらいしかなかった。今回久しぶりに出そうということで、各部会とそれから学校関係松浪地区は小学校と中学校、アセレイアがありまして、今まであまり載せてなかったんですが、今回松浪地区にある学校だから全部載せようかということになりまして、今日、各学校のPTAとか役員さんを集めて、こういう企画をすることを説明して作りました。それから今度浜竹に小さな公園ができますが、その概要、それから松浪地区の災害リスクですね、それから朝市の写真が載っていますけれども、これは毎月第1と第3日曜日に業者の方々が来て朝市を開催しています。本来であると来月当り豚汁とか甘酒とかを出すんですが、今年は出す予定はありません。このようなことを松浪だよりとして載せています。それから松浪コミセンだより、これは毎月出してましてコミセンでやっていることを、大いに宣伝して人寄せをしていきたいと考えています。

(湘南地区) 防災活動で今年は人に集まっていたら防災訓練とかができない、じゃあどうしていいかということで、地域の中で相談した結果、皆さんに少しでも防災のことを意識してもらおうということで、マンションにお住まいの方と、戸建ての方でということ、住んでる環境が違いますので、そういう意味合いで分けて防災について備えましょうというものを作りました。特に台風19号の時に洪水ということで、今までほとんど意識せずに、まあ大丈夫だろうという感じだったのが、あの時は非常に多くの方が学校に避難されました。しかし湘南地区はほとんどの地域が相模川とか小出川が氾濫したときには、水の中という状況なので、皆さんの意識をこういうふうに変えてくださいねという意味で逃げる場所はどこかということ、を多少なりとも高いところに逃げてくださいねということ、を改めて認識していただくために作りました。詳細についてはこういった場合にはどのように考えたらいいかということで、自宅避難であったり、安全なところでどうやって逃げるかというように、意識してもらおうためのパンフレットになっております。こういうことで少しでも本当に自分たちが危険な時にはどこに逃げるべきだということを再認

識してもらおうと、この中で特にいままで地元の小中学校に逃げればいんだというふうに認識していた方が、改めてこのように書かれると水浸しになり陸の孤島になってしまうわけですから、安全なところにちゃんと逃げなきゃいけないんだなということ認識してもらおうことでこのような形にさせていただきました。同じようなところ、おそらく他の地域でも土砂であったり、洪水であったり、身近なところで去年の経験を踏まえて、意識を持ってもらうために、そんなにお金もかかるわけではありませんから、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

(小出地区) 小出地区の七福神めぐり 1月7日に実施いたします。このチラシは地域内で各戸配布したのですが、地域外の皆様のところには残念ながら予算の関係で配布できませんので、地域の効果的なところに貼りだしていただきたいと思います。

(会長) 湘南地区で先ほど皆さん方に2枚入ってると思うんですが、湘南地区はマンションが4つと浜見平団地ですね、それから1戸建てのところと8自治会があるんですよ。その関係で1戸建てと集合住宅用に2枚作りましたんで、中見てもらうとわかりますが、同じものではないのでよろしくお願いします。

イ その他

なし

(4) 行政からの依頼事項等について

① 「茅ヶ崎市自治基本条例推進方針(素案)」ほか9件の1パブリックコメントの実施について

市民自治推進課長より、資料に基づき説明があった。

② コミュニティバスのダイヤ改正について

都市対策課長より資料に基づき説明があった。

主な質疑は次のとおり

(問) 乗車人数が6割減、コロナ禍等と思うんですが、私はそれもそうなんでしょうけれども、コミュニティバスが現金でしか乗れないよね。これを将来電子カードを使えるようには考えないんですか。私自身今車をやめてバス、歩き、自転車で行動してるんですが、若松町のバス停から乗るんですが、コミュニティバスが先に来ます。その後、神奈中さんが来ます。でコミュニティバスに乗らないです。その後の神奈中に乗る。見ていると相当急いでる方はコミュニティバスに乗るんです。なぜ乗らないのかなと考えたら、たぶん使えないもんねという話が多いんです。だから利用者が少ないという部分は、それも大きく影響してるんじゃないかなという感じがするんですが、その中で、将来的にお金がかかる問題だと思いますが、あそこは神奈中さんが代行運行してるんですね。そうするとそういう料金形態もあろうかと思うんですが、将来的に設置する考えはあるんですか。

(答) 今言われたように利便性を増すという意味ではカードというのも将来的には考えていかなきゃいけないと思ってます。ただ今この状況なので、すぐにはいかなないんですが当然その運行改善ですとか、そういった時に合わせて、そういったものを検討していかなければいけないと思っています。

(会長) この減便になったことによって、市からコミュニティバスに予算を出してるじゃないですか。いくらか減るんですか。

(答) 年間にならしますと、便が約2割減るということで、おそらく年間にならしますと、1割ぐらいは減るのかなという計算をしております。なかなか事後清算であるということもありまして、今の段階でどのくらい減りますという計算は正確なところは出ておりません。

(答) 小出地区は北部循環が走ってますが、残念ながら市立病院なんですね。これが市役所とか市の中心部に行くのなら利用者が多いと思うんですが、従って神奈中のバスで駅の方に出るということになってます。残念です。

③ 令和3年度の広報紙の考え方について

秘書広報課長より資料に基づき説明があった。

主な質疑は次のとおり

(会長) このアンケートの目的とか趣旨とかは何だったんですか。あと最後に広報紙の在り方が出てきたということは、自治会に対してはコロナ禍のなかでの台頭ということだったはずなのに、在り方というのはどういうことですか。

(答) アンケートの趣旨ですが、私どもわかりやすい情報発信をどのように行っていくのか、どのように市民の皆さまに伝えていったらいいのか、一度アンケートを取らせていただいたというのが大きなところですよ。広報紙の紙面の内容につきましては、茅ヶ崎市を今後、広報戦略として、どのように茅ヶ崎愛をもっていただいて、どのようにいろんな形で内外に発信していくかということのを常に考えております。そういった中、こういった形で広報紙を目指していきたいということでございまして、皆様方ともお話をさせていただいて、手に取って茅ヶ崎愛を感じていただけるような広報紙を目指さないといけない、今回のアンケートを見ると手にとって見たくなる楽しみでしかないという回答はほとんどありませんでした。アンケートを取った結果残念なのは広報紙を待ち遠しくて手に取って早く読みたいというご意見はほとんどありませんでした。これが残念な思いです。これまでのような広報の内容では皆様に伝わっていくものが少し足りないなという感じがありまして、ぜひ広報紙を少し見直させていただいて、手に取って茅ヶ崎の良さを感じていただく紙面にしたいと思っております。

(問) この間、うちの自治会で行方不明者が出たんですよ。それで赤羽根でも行方不明者が出て自治会の役員とかみんなで探し回った。結果的には戸塚まで歩いて行っちゃった。同じ事が、うちの方でもできないかと思ったんですが、まず驚いたことにその人が住んでいる地区で役員が顔見たことがない。民生委員も顔見たことない。高齢者だから当然1回ぐらい行ってるはずなんだけど、恥ずかしながら私もあったことがない。奥さんは松林地区の運動会にいただいたんで、奥さんは知ってるんだけど、行方不明になった旦那を知らないんですよ。それで何を感じたかということ、知らない人間を探しようがない。でも一応お願いはしましたよ。隣の自治会の責任者にもお願いをしたし、コミセンに集まってる老人会も含めて聞いたんですが、誰もみたことない。実はコロナの中でこういう人がたくさんいる。朝出ていったら、夜遅くまで帰らない。近所の人は誰も知らない人がいっぱい出てくる。なんで広報紙のことでこんなこと言うかっていうと何か紙面を良くしたいとか良く見る記事は何だとか言ってんだけど、それは良くしたらいいと思いますよ。それは否定しないんだけど、そもそも広報紙が

地域にどういう役割を果たしてるのか、考えたことあるんですかと。つまり配り方も自治会によってさまざまなんです。私の自治会みたいに全部1,600枚自治会の事務所にきて、役員がみんなで仕分けをして、それを班長のところに届けて、班長が組長さんに届けて回すということをやっているところもあるし、隣の松林地区のニュータウンという自治会は広報紙が届くと、みんな町内会の事務所に集まって各班長さんが仕分けをして、そこで配ってる。つまり集まった段階でかなり情報交換してるわけですね。広報紙を配るということは、一カ月に2回は、その地域に住んでる人は全員ではないけれど、少なくとも多くの人には接する機会があるわけですね。だから一種の安否確認だと思ってるわけですよ。回覧版がたまれば、あそこのうちは回覧版がもう三日も止まっているよ、なんかあったんじゃないのって、実際何かあったことがあるんです。こういう役割をちゃんと考えたことあるのと、広報紙をコロナがこわいから来年も市で配りますと言うんだけど、じゃあ行政からの回覧も自治会はなにもしなくていいのかと、要するに広報紙は配らないから自治会配布手数料も払わないけど、回覧だけは配ってくれをやるんですか。それ以外にもいろいろあります。こういうことをすることによってなにが起きるのかということもちゃんと検討したんですかと、アンケートの中にはそんな項目はないわけね。ないということはそんなもの聞く気がないわけだよ。例えば大勢の人に読んでもらう、情報を聞いてもらうのが必要だというのなら、今はやりのスマホのホームページみたいなので、多くの人があるのでそういう方法もあるはずで、何も広報紙だけにしぼって広報紙に触るとコロナがうつるみたいな、そんな単純な議論でいいんですかという考え方をまず聞きたい。

(会長) 考え方を一つずつ聞くとね、5時間か6時間かかっちゃうんですよ。せっかくだから皆さん方の意見を言っていた方がいいと思います。

(委員) アンケートの設問の中に、今まちから協議会連絡会で自治会の加入率を上げようということ始めてるんですけども、この設問の中にあなたは自治会の加入者ですか、そうではないですかという設問がないんですよ。だからこの意見は加入者の意見なのか、非加入者の意見なのか、入ってない人は今までなかったのに広報紙が来たから良かったということでもいい方にいくんだけど、まず一番最初の設問が市政としての広報としての意識が欠如してる。

(委員) もう1度確認したいんですが、感染症の関係で4月以降やらないのか、それだけの問題じゃなく、今後全世帯に配布したいから、今までの自治会を通しての配布をやらないのか、その辺のところがよくわからない。例えば全世帯に配布についても、この連絡会の中で充分協議していけば、全世帯配布はやらないよという話はしてないと思うんですよ。協議も何もしないで方向だけを決めちゃうというのは、納得できないし、もしそうであれば他の部分もみんなごみの問題もしかり、自治会に入っていない人のごみの世話までやりませんよという話になる。当然市がやるんだというような話にもなりかねないと危惧いたします。

(委員) さきほど言われてましたけど住民への情報伝達ということでは、広報でまず各戸配布で情報伝達してます。そのほかに回覧という情報伝達が重要な機能をもっている。それをどうお考えなのか。広報がポスティングになっちゃってから回覧はほとんどないんです。ですから従来は回覧で情報伝達していた文化会館の催し物案内なども回覧

が回らなくなったんで、自分で見に行かない限りは手に入らない。その他たくさんあります。そういうものについては広報はどうやって市民に情報伝達をするつもりなのか。今後とも回覧で伝達するのはやめるということなのか、これも重要な情報伝達なので、広報だけのことではないと思うんですね。じゃなければ回覧に回すようなやつは全部広報に組み込むのか。そこらへんをはっきりしてもらわないと市民への情報サービスが大きく減っちゃうということを考えていただきたい。

(会長) 回答は結構ですので。今日は皆さんの意見を聞いていただいて、文書回答でいただきたい。

(委員) 広報紙に限ってやってるんですね。それ以外の情報はどこがコントロールしてるのか。縦割り行政の弊害が出てるんですね。広報紙だけが情報じゃなくて、それ以外の自治会を通して市からの情報はいっぱいあるんですよ。トータル的にコントロールする部署を作ってほしいということ。例えばひとつの事例なんですけれども、小出コミセンの運営委員会の研修で武蔵野市に約5年前に行きました。武蔵野市の職員から武蔵野市は自治会組織がありません、という話を聞きまして、それでは情報の伝達はどういうふうにしてるんですかと聞きましてら広報紙に限っては、新聞折り込みでやってました。最近は新聞取る人も少なくなってきたんで、人材を使ってポスティングしている。じゃあそれ以外の情報の伝達はどのようにしてるんですかと聞いた武蔵野市は茅ヶ崎市よりちょっと大きな人口構成なんですけれども、市内20カ所にコミュニティセンターを作ってます。そこに情報関係をおいてあって地域の人には自分の必要な情報は取りに行くシステムを作ってますということでした。茅ヶ崎市はちゅっと遅れてるんじゃないかな。自治会を使わないんならハード面を整備して、市民が必要な情報を取りに行くシステムをつくりが必要だと思います。

(委員) この関係については市民自治の方から連絡があって広報紙の回覧を全戸配布にしたいよじゃなくて、コロナの関係で業者が全戸配布をやるんだよということで、じゃあいいですねということで、了承しました。それなのにいつの間にか茅ヶ崎市そのものが自治会に頼むんじゃないかと、業者に全戸配布にしていくというのは、初めからボタンの付け方が違ってるとような気がする。そうしたいんだたら初めからこういう形でやっていきますと、情報はこんな形で伝達していきますよというように話すべきだと思う。

(委員) 私共のところでは、3,400世帯ありますので、これを配るのに市の広報手数料が入るので、2人の人をあててやっています。もしこれが入らなるとその人たちにお願ひしてやることができなくなる。ていうことは先ほどから皆さん言われてるように、うちの場合には小学校、中学校などの学校だよりとか、いろんな団体があります、その活動状況なども含めて月2回配布してます。これができなくなると自治会のメリットがない。皆さんに自治会入って下さい、自治会入ってればいろんな茅ヶ崎市とか香川の情報がすべてわかりますよと説明して加入をすすめてるんですが、今後それができなくなる。そうするともう自治会として機能しないと思います。なんでこれがまちぢからとか各自治会長に事前に相談なく、公民館はわりと自治会に入っていない方が行かれるんですよ。そういう方に意見を聞いている感じもします。それと聞きたいんですが、一番最初はコロナということで全戸配布にしたということですが、じゃあ全

国でそういう形に切り替えたのはどのくらいあるのか、またそういう危険性が本当にあったのか。何の説明もなく、我々に情報の提供も相談も何もなかった。茅ヶ崎市に不信感を抱いています。

(委員) 来年の4月からは旧に戻るんですか、それとも業者を頼んでやるんですか。1年間やってみて結果はどうだったんですか。1年間広報紙の内容も違いますよ。月に1回だから。それで業者に委託して予算の範囲内でやってるんです。あんたたちは自治会を頼りにしてまたやるのか。月1回と月2回の内容の検討はしたのか。自治会を安く見すぎてるんじゃないか。自治会に入らないで全戸配布をするのはおかしいんじゃないか。

(会長) アンケートはだいたいほかのアンケートをみると誘導尋問みたいのが多いんですよ。例えばこの2ページの配布形態なんかはこのコロナの時期だから全世帯のポスティングがいいということだから172人、当然なりますよね。そういうところをよしこれでいっちゃおうなんていう考え方だとまずいんじゃないかなと私は思うんですが。

(委員) さきほどのお話ですと基本的に来年度の活動計画として、全戸配布今回の状況をそのまま継続するというふうに言われたんですが、その中で考えると自治会の事業計画のなかから広報紙の配布に関しては、去年は入ってるんですね。次の年度は外していいということですね。

(委員) このアンケートの取り方なんですけれども、この3項目目の自治会や団体の代表者26名という方がアンケートに答えています。私なんかこのアンケート見たこともないし、どんなアンケートだったかわからないんですが、26名というのはここにいる委員のことですか。本当にこの26名のうちから回答を得たのか聞きたいです。

(委員) 広報紙の件ですが、紙面のリニューアルとか内容が悪い、もう少し充実させろっていうのは、これは秘書広報課の責任問題で内容を充実させるのは、あなた方の努力だと思うんですが、今年もうやむを得ないと思うんですが、一つの試験方法としてね。それをまた来年もコロナ、再来年もコロナ、今年これでうまくいったからこれでやろうというやり方これはおかしい。ワクチンも出てくるだろうし、いろんな市民の知恵も出てきて回覧を配るくらいのことではコロナになりませんよ。三密じゃないんだから。いまわれわれも回覧を復活させるところもあります。それでも最初のころは組長さんは嫌がりましたけれどもね。昨年4月5月、でも今になったら回覧は必要だということで大丈夫ということで回してもらってる。来年は各自治会でもそう思ってるでしょうし、回覧は近隣の見回りとかいろんな目的で各組長さんがやってるんですね。これがなくなっちゃうと見回りさえできなくなっちゃう。非常に良くない。それと同時に確実に伝わる。全戸配布というけど、我々の自治会750世帯加入75%で1,000世帯あります。まちぢから協議会の広報紙は1,000部来るんです。それを確実にまちぢからですから、会員じゃない自治会員じゃない人にも届けようということで、みんなやっています。組長に配るときにだいたいそこに自治会に入っていない人がどれくらいいるかはわかるわけです。それも含めて1,000部配ってる。穴を埋めるために民生委員の方が、高齢者で自治会に入っていない方は届けますよと言ってくれる。そのくらいのこと各まちぢからでも自治会でもできるんですよ。

それを、まったくこれ信用してない。全世帯への配布。確実に配布。全世帯への配布でも配布してないですよ。敷地に4世帯住んでてポストは一つだと、1部しか入っていない。その人が来たので、じゃあ秘書広報課に言って届けてもらいなさいよと言いました。業者の配布は確実にじゃないんですよ。それでかかる費用は各自治会に手数料を払ったと同じくらいにかかっているわけでしょう。月1回配るのに。2回だったら倍かかるわけだから、1回でいこう。もっと我々を信用してくださいよ。じゃないと私たちも秘書広報課を信用しませんよ。

(会長) ちょっと私も思い出したんですが、地区の中で1つの自治会で配布してる人が1人いて20万円年間払ってる。これをなくしたら、その人大丈夫かなと思っちゃう。このアンケートをです。私たちも知らなかったんですが、三觜会長がですね、これを持ってきてくれたんでわかったんです。最後三觜会長にお願いします。

(委員) そういう内容で言うつもりじゃないんですけども、大きく二つあって、一つはこのアンケートの取り方なんですけどね。ポスティング配布の方にもってってるような感じ、明らかに誘導ですね。例えばうちの自治会の会員、だいたい組長さんに配ってもらってるんですけども、これやらないでいいんだったら、そのほうがいいんじゃないの、みんな全戸配布の方に〇つけちゃってると思うんですよ。いくら広報の手当が入ってるって言っても、末端の役員さんなんかは、いくら広報手数料が市から入ってるっていても、それを全然意識してないんで、これはありがたいことだと自治会の役員の仕事の一つ減ったなということで回答されている。うちの場合は先ほど他地区の委員が言われたように回覧だとか戸別配布のものは、本当に場合によっては、状況確認、安否確認、隣の人の顔がどうかという唯一のつながりになっているんです。これ一つなくすところこういうものをやらなくていいんじゃないのという雰囲気自治会の中に広がる可能性が大いにあると思います。市ができるんじゃないの回覧を含めてですね。それが一つと例えばこれ2年ぐらいやらなかったら、もとに戻してくれと言われても、市がやってるんだから今までどおりでいいんじゃないのっていう、できれば補助金の期待もあるので、我々ができることはやっていきたいと思うんですけども、これ来年もコロナが落ち着いてもね市の方で戸別配布をやってくれるという形になったら、再来年元通りに戻してくれとといったときに、大いにブーイングが多分出てくる。もっと言わせてもらえば、ほかのものに波及していった場合に自治会って何やってるんだろう、入らなくなったっていろんな資料は来るし、市からの要請なども別に自治会に入ってなくなつて見れるんだから必要ないんじゃないのというところまで発展していく可能性があるんで、充分ご検討いただいて、その辺まで考えていただいたうえで、結論を出してもらった方がいいんじゃないかと思います。

(会長) さきほど文書回答をしていただきたいというお話をしたんですが、いつごろまでにいただけますでしょうか。できたらお正月前に出していただくとありがたいんですが。

(委員) 私がトイレに行っている間に、来年も同じようにやるんだということを言っちゃったろう。ということは今茅ヶ崎市が全体に補助金をカットするという中に入っているのかを聞きたい。

(答) こういう皆様の意見を聞く機会を私の方がしっかりと設定しなかったのは、本当に

申し訳なく思っております。これだけ多くの意見をおうかがいして、広報紙の配布の仕方については、私は本当にコロナを心配してポスティングの方法を取らせていただきました。コロナがわからない感染症なので本当にいろんな形でリスクを背負わない方がいいというふうに真剣に思っているんです。ただ皆様のご意見のなかで来年ポスティングを継続するというお話については、しっかりと私共考えさせていただいて、来年早々にでもお話しできるようにと思っております。庁内的にも自治会が非常に重要だということを認識すべきだと思います。このアンケートの自治会が配布するところを回答していただいた中に地域のコミュニティとつながりとかをすごく大事だと回答されている方もいらっしゃいます。この意見は非常に重要だと私は思っておりまして、最初に全戸配布するときも、また自治会の皆様に配布をお願いしたいということは、お話しさせていただいておりますし、とにかく自治会の皆様にちゃんとお話しして、コロナが終息したら戻すという考え方でずっといます。

(会長) 一応来年は検討するというお話ですので、文書回答がされますのでじっくり読ませていただきます。

(事務局) 終わる前に1点、三浦課長からお話があります。

(市民自治推進課長) 11月2日に市が行った記者発表の資料を机の上に置かせていただきました。ご覧いただければと思います。茅ヶ崎市記者発表資料2020年11月20日と書かれたもので、タイトルが2021年度予算編成、予算要求段階で81億円が財源不足という記者発表の内容になってございます。本市では新型コロナウイルス感染拡大の影響で市税が37億円の減収という予測がされるなか、21年度各課からどんな事業をするのかという予算要求をしましたところ81億円が収支不足になるという算定がされました。2番のところにそんな状況を踏まえてどういうふうにして行くのかを書かせていただいておりますけれども、基本的に感染防止対策と社会経済活動を両立させるために必要な事業ということで、ウィズコロナ関連事業に重点を置いて、その他は最低限町の機能維持に必要な不可欠な義務的的事业に限定して実施していくという方針を記者発表させていただいております。先月も財政の査定状況をお伝えさせていただきましたが、これを踏まえて今まさに予算折衝中でございますので、方針が固まり次第またご報告させていただきますが、本市の財政状況がこのようなものであるということを情報共有させていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(5) 閉 会 林副会長